学校名　石川県立小松養護学校

特別支援教育研究協力校中間報告書

1　研究のねらい

障害のある児童生徒の学校卒業後の豊かな生活を実現するために、自立や社会参加につながるキャリア教育について研究する。教育活動全体を通じて小学部・中学部・高等部一貫して推進するための指導内容、指導方法、教育課程の編成、教材・教具等を研究開発する。

2　研究内容

・学識経験者、関係機関、県教委、学校代表からなる研究運営協議会を組織する。
・学内では各課、各部代表からなるキャリア教育研究委員会を組織する。
・小学部、中学部、高等部教員による縦割りグループ研究会を編成する。
・研究推進にあたっては、キャリア教育研究委員会（全体会）と各部研究会、縦割りグループ研究会との効果的な連携・協力を図る。
・小学部から高等部までの一貫したキャリア教育の推進の趣旨を学校全体で共通理解する。
・キャリア教育指導内容表（試案）を作成し、これに基づき各部でPDCAサイクルをとおして授業改善を行う。さらに、縦割りグループ研究会において事例検討を行い、指導内容や指導方法の検討・精選をする。

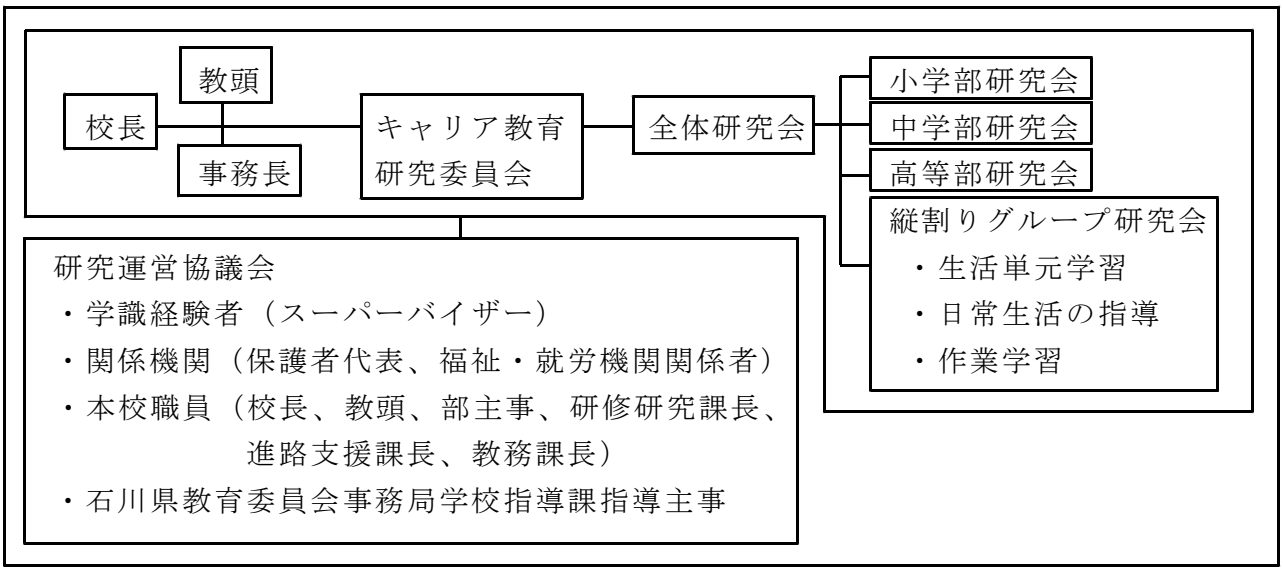
3　評価の方法

以下の観点により全教員にアンケートを行い自己評価を行う。
・全教員のキャリア教育への意識を高め、共通理解を深めることができたか。
・小学部・中学部・高等部一貫性をもったキャリア教育指導内容表が作成できたか。
・授業との関連を図ったキャリア教育の取り組みができたか。

4　研究経過

1)　研究体制

研究を進めるにあたり、学内にキャリア教育研究委員会を組織した。また、学識経験者（スーパーバイザー）、関係機関、県教委、学校代表からなる研究運営協議会を組織し、指導助言を受けながら研究を進めるようにした。(図表1)。
スーパーバイザーは独立行政法人国立特別支援教育総合研究所教育支援部総括研究員の木村宣孝氏を委嘱した。



図表1　平成20年度研究組織

2)　全体研究会での取組

全体研究会では、本研究の主題、研究内容、研究方法の共通理解を図るとともに、小学部から高等部までの一貫したキャリア教育の推進の趣旨を学校全体で共通理解するために以下の取組を行った。

1.　学習会、講演会の実施

5月には全体会として参考資料による学習会を行い、6月にはスーパーバイザーである木村宣孝氏の講話を聞く機会を設けた。8月には神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部教授の松為信雄氏を講師に招き教育講演会を実施した。

2.　「小松養護学校キャリア教育全体計画」の策定

一貫したキャリア教育推進の趣旨を全教員が共通理解した上で、学校全体として取り組むため「小松養護学校キャリア教育全体計画」を策定した。(図表5)。キャリア教育研究委員会で作成した原案を小・中・高各部研究会、全体研究会で検討し決定した。策定にあたっては、岩手県立総合教育センターから公表されている「特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック」を参考とした。

3.　「キャリア発達段階・内容表（全体構造）小松養護学校版（試案)」の作成

小学部から高等部までの一貫したキャリア教育を実践するために、各段階における指導内容とそのつながりを把握できるように「キャリア発達段階・内容表（全体構造）小松養護学校版（試案)」を作成した。(図表6)。キャリア教育研究委員会で作成した原案を全体研究会で検討し決定した。作成にあたっては、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所より公表された「知的障害のある児童生徒のキャリア発達段階・内容表（試案)」を参考にした。

3)　縦割りグループ研究会での取り組み

9月以降は、縦割り研究グループ（4グループ）を編成し、研究活動に取り組んだ。（図表1）。このようなグループ編成にした理由は、研究1年目であるため一つのグループの構成人数があまり少なくならないようにし、さらに各グループにキャリア教育研究委員が入るようにすることで、研究活動が円滑に進むように配慮したためである。

1.　「各教科・領域等におけるキャリア教育指導内容表（試案）」の作成

指導にあたっては、より具体的な指導内容を共有することが必要であるため、「キャリア教育指導内容表」を作成した。平成19年度に作成した「平成19年度版キャリア教育指導内容表」を修正したものを素案とし、縦割りグループ研究会においてさらに検討、修正したものが「各教科・領域等におけるキャリア教育指導内容表（試案）」である。併せて「キャリア発達段階・内容表（全体構造）小松養護学校版（試案）」及び両者の関連の検討、修正を図った。なお平成20年度は領域・教科を合わせた指導に絞って研究に取り組んでいるため、「各教科・領域等におけるキャリア教育指導内容表（試案）」は「生活単元学習」、「日常生活の指導」、「作業学習」のみである。図表7は指導内容表の一例（作業学習の一部）である。

2.　「各教科・領域等におけるキャリア教育指導内容表（試案）」に基づく授業実践

それぞれの研究グループにおいて、指導内容表に基づきキャリア教育の視点を取り入れた授業実践に取り組んだ。キャリア教育の視点を取り入れた指導案を作成し、授業整理会を中心とした授業研究を行い、指導内容や指導・支援方法の検討・精選など授業改善に取り組んだ。また、「キャリア発達段階・内容表（全体構造）小松養護学校版」及び「各教科・領域等におけるキャリア教育指導内容表（試案）」へのフィードバックを図った。

3.　実践事例（生活単元学習グループ、中学部の指導事例）

中学部1年1組には3名の生徒がいる。日常生活動作はほぼ自立しており、音声言語を主体にしたコミュニケーションが可能である。学習活動の中で、「貸して。」と言って友達から道具を借りたり、学級園で栽培したヤーコンを友達と力を合わせ抜いたりするなど、活動の流れにそった必然的な状況においては、集団の中で友達同士関わっている場面が随所に見られる。また、「手伝ってあげて。」の指示で、友達と一緒に活動することもできる。キャリア教育の視点からこの学級の生徒を見ると、「人間関係形成能力」における「協力・共同」－「集団における役割理解と協力」ということは一見できているように思われた。

この学級で生活単元学習の研究授業として「ヤーコンを使ったチヂミづくり」を行うにあたり、授業者が特に大切にしたいと考えたことは「協力・共同」であった。活動の流れにそった必然的な状況の中では「協力・共同」できるが、どのような状況でもできるわけではないことが気になっていた。

縦割り研究グループでの検討会等を通して明らかになってきたことは、この学級の生徒は、活動の流れにそった必然的な状況以外の場面では、「協力・共同」があ

まり見られないということである。例えば、友達が困って活動が止まってしまった時に、適切な手助けができないということがあった。

小学部段階では、自分のことで精一杯な児童も、中学部、高等部と生活年齢が上がるにつれ、少しずつ周りのことが見えてくる。そうした中で「集団における役割理解と協力」ということは、同じ集団にいる仲間が「今どういう状況にあるのか」ということや、「仲間の行動の意味することは何か」といったことに、気付いて考えることが求められる。そのための支援として、教師は「手伝ってあげて」と直接的な言い方をするのではなく、生徒の活動を見守り、困っている仲間がいることに気づかせたり、仲間の行動の意味することがわかるような解説をしたりして、生徒自身が状況をつかみ考えることのできる機会を作るようにしなければならないと考えた。

研究授業の中では、生徒同士の関わりが生まれやすいよう、用具を一つだけ用意してそれを順番に使うようにしたり、教師が順番を決めず生徒に考えさせたりするなどの工夫があった。以下に一例を挙げる。

チヂミの生地をつくる際に、チヂミ粉が入った袋をはさみでなかなか切ることのできない生徒Aがいた。隣に座っていた生徒Bは、生徒Aが袋をあけられず困っていることに気付いていなかった。教師は二人の様子を見守りつつも、生徒Bに「生徒Aさんが困っているみたいだけれど。」と言葉をかけた。生徒Bは教師の言葉かけによって初めて、生徒Aがなかなか袋を開けられないでいることに気付き、「私がやります」と言った。教師は協力して活動することを促すため、生徒Bに「手伝ってあげたら。」と言葉をかけた。生徒Bはしばらく考え、生徒Aが片手に持っていたチヂミ粉の袋を生徒Aに代わって両手で持った。袋がしっかりと支えられたことで、生徒Aははさみで袋を切ることができ、チヂミ粉をボールにあけることができた。

このように、「協力・共同」を深めていくためには、いろいろな状況を用意し、その一つ一つに対して支援を考え、実際の場に活きる「協力・共同」にしていく必要があることを、この指導事例から学んだ。

5　成果と課題

1)　自己評価

評価計画に従い全教員対象にアンケートを行った。(図表2、3、4)。

回答は、**A：あてはまる、B：どちらかといえばあてはまる、C：どちらかといえばあてはまらない、D：あてはまらない、である。**

1.　全教員のキャリア教育への意識の向上と共通理解（図表2）

設問1「キャリア教育の意味や内容についての理解」については、1月に実施したアンケートの結果で全教員の約90％がAまたはBと回答しており、大多数の教員が「キャリア教育の意味や内容について理解している」と判断している。

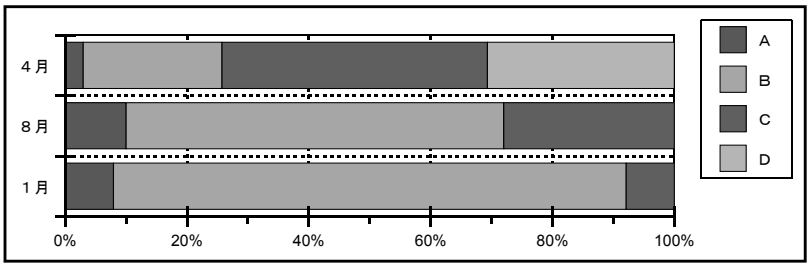
設問2「小学部から高等部までの一貫したキャリア教育の必要性」については、同アンケートの結果で全教員の約90％がAまたはBと回答しており、大多数の教員が「小

学部から高等部までの一貫したキャリア教育が必要である」と考えている。

設問3「キャリア教育を学校全体で組織的に推進することの重要性」については、同アンケートの結果でAまたはBの回答が100％であり、全教員が「キャリア教育を学校全体で組織的に推進することが重要」と考えている。(図表2)。

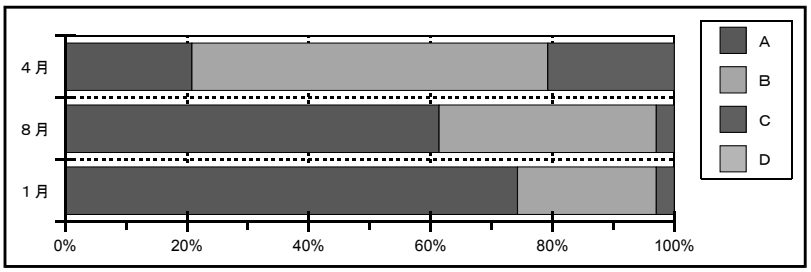
設問1　「キャリア教育の意味や内容について理解している」

	A	B	C	D
4月	3%	23%	44%	30%
8月	10%	62%	28%	0%
1月	8%	85%	7%	0%



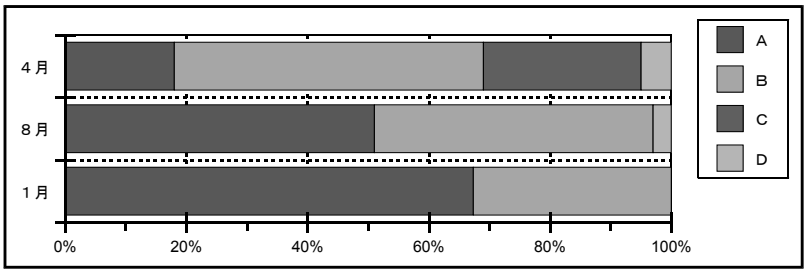
設問2　「小学部から高等部までの一貫したキャリア教育は必要である」

	A	B	C	D
4月	21%	58%	21%	0%
8月	62%	36%	2%	0%
1月	75%	23%	2%	0%



設問3　「キャリア教育を学校全体で組織的に推進することは重要である」

	A	B	C	D
4月	18%	51%	26%	5%
8月	51%	46%	0%	3%
1月	68%	32%	0%	0%



図表2　全教員のキャリア教育への意識の向上と共通理解

2.　授業との関連を図ったキャリア教育の取り組み

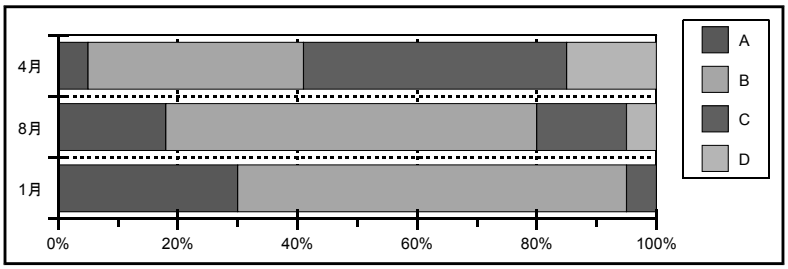
設問4「日常の教育活動の中でのキャリア教育についての意識」については、1月に実施したアンケートの結果でAまたはBの回答が95％であり、大多数の教員が日常の教育活動の中でのキャリア教育について意識している。

設問5「日常の教育活動の中でのキャリア教育の具体的な実践」については、同アンケートの結果で全教員の約90％がAまたはBと回答しており、大多数の教員が日常の教育活動の中でキャリア教育を具体的に実践していると考えている。

設問6「キャリア教育の考え方を取り入れた個別の教育支援計画、個別の指導計画、年間指導計画の作成」については、同アンケートの結果、A＋Bの割合が63％でC＋Dの割合が37％である。キャリア教育の考え方を取り入れて各計画を作成できたと考えているのは全教員の3分の2弱にとどまっている。(図表3)。

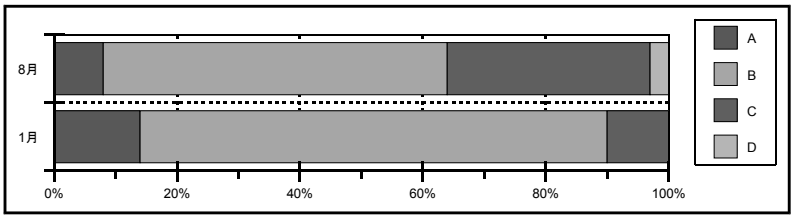
設問4　日常の教育活動の中でキャリア教育について意識している

	A	B	C	D
4月	5%	36%	44%	15%
8月	18%	62%	15%	5%
1月	30%	65%	5%	0%



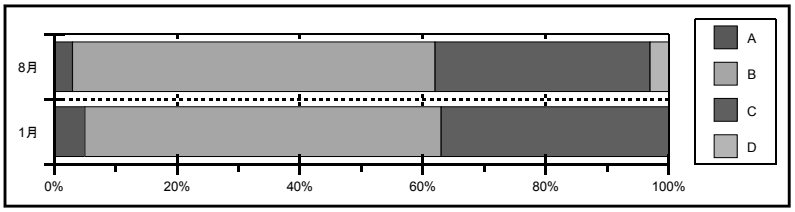
設問5　日常の教育活動の中でキャリア教育を具体的に実践している

	A	B	C	D
8月	8%	56%	33%	3%
1月	14%	76%	10%	0%



設問6　個別の教育支援計画、個別の指導計画、年間指導計画の作成にあたり、キャリア教育の考え方を取り入れることができた

	A	B	C	D
8月	3%	59%	35%	3%
1月	5%	58%	37%	0%



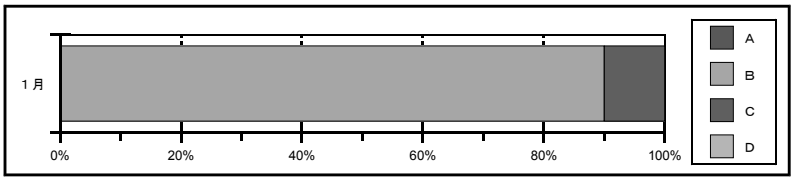
図表3　授業との関連を図ったキャリア教育の取り組み

3.　小学部・中学部・高等部一貫性をもったキャリア教育指導内容表の作成

1月に実施したアンケートの結果で全教員の約90%がBと回答しており、試案の段階ではあるが、大多数の教員がどちらかといえば小学部・中学部・高等部一貫性をもったキャリア教育指導内容表が作成できたと判断している。(図表4)。

設問7　小学部・中学部・高等部一貫性をもったキャリア教育指導内容表が作成できたか

	A	B	C	D
1月	0%	90%	10%	0%



図表4　小学部・中学部・高等部一貫性をもったキャリア教育指導内容表の作成

2)　成果

全体研究会での取り組みや縦割り研究グループにおける取り組みにより、全教員のキャリア教育への意識の向上と共通理解が深まった。

縦割りグループを編成し、「キャリア教育指導内容表（試案)」の作成や指導内容表に基づく授業実践等の研究活動に取り組んだことで、各部の教育活動について相互理解を深める機会となった。また、実践事例に示したように、キャリア教育の視点を取り入れることで、授業改善の充実につながった。

教員のキャリア教育の意味や内容の理解、小学部から高等部までの一貫したキャリア教育の必要性の共通理解が深まったこと、さらに、試案の段階ではあるが「キャリア教育指導内容表」が作成されたことにより、日常の教育活動の中でキャリア教育について意識し具体的に実践している教員が増加した。

3)　課題

全教員のキャリア教育への意識の向上と共通理解についての課題としては、「キャリア教育の意味や内容についての理解」をさらに深めることが挙げられる。アンケート結果ではB回答に比べてA回答が少ない。A回答の比率を上げることを目指したい。

小学部・中学部・高等部一貫性をもったキャリア教育指導内容表の作成についてはアンケート結果でA回答がなく（B回答が90％)、一応は作成できたものの、まだ完全なものでないと考えている教員が大多数である。また、スーパーバイザーからの指導・助言をもとに、内容や形式の改善・充実に取り組みたい。

授業との関連を図ったキャリア教育の取り組みについての課題としては、「日常の教育活動の中でのキャリア教育の具体的な実践」が挙げられる。アンケート結果ではB回答に比べてA回答が少ない。A回答の比率を上げることを目指したい。また、「キャリア教育の考え方を取り入れた個別の教育支援計画、個別の指導計画、年間指導計画の作成」も課題である。個別の教育支援計画等の作成にあたりキャリア教育の考え方を取り入れることができたと考えている教員は3分の2弱にとどまっている。これは具体的な指導内容を示すキャリア教育指導内容表（試案）が、まだ完全なものではないこと、従来の個別の教育支援計画、個別の指導計画、年間指導計画の様式ではキャリア教育の考え方を表しにくいことが原因と推測される。

6　今後の展望

全教員がキャリア教育への意識をさらに向上させ、共通理解を深めていくために、全体研究会の内容、回数、時期等をより適切なものにし充実させたい。また、参考資料、参考文献等も充実させ、全教員の意識向上につなげたい。

「キャリア教育指導内容表（試案)」については、縦割りグループ研究会における検討と指導内容表に基づく実践の結果のフィードバックにより改善、充実を図りたい。

授業との関連を図ったキャリア教育の取り組みについては、前記の取り組みを確実にすることと、各研究グループにおける事例検討を中心とする授業改善の実践をさらに充実させることで、より多くの教員が日常の教育活動の中でキャリア教育を意識し、具体的に実践できるようにしたい。また、個別の教育支援計画、個別の指導計画、年間指導計画の様式の見直しを行い、これらにキャリア教育の考え方を取り入れるようにしたい。

図表5　小松養護学校キャリア教育全体計画

小松養護学校キャリア教育全体計画　（平成20年9月現在）

学校教育目標

児童生徒の特性及び能力に応じて、自立に必要な知識・技能・態度を培い、社会の一員として生きる人間の育成を目指す。

教育関係法規（等）

日本国憲法、教育基本法、学校教育法、
学習指導要領、　等
石川の学校教育振興ビジョン

キャリア教育の目的

ライフステージや発達段階に応じて求められる役割を果たそうとする意欲や態度を育て、また必要とされる具体的な力を身につけ、自立と社会参加、豊かな生活の実現を目指す。

児童生徒・保護者の願い

- 日常生活動作が向上し、基本的生活習慣が確立して欲しい
- 自立した生活が送れるようにしたい
- コミュニケーションの面で成長して欲しい
- 学校生活で経験を積み重ね、いろいろな環境に適応できる力を身につけて欲しい
- 健康で楽しく生き生きとした毎日を送れるようになって欲しい
- やりたいことを生かして本人にあった場所で働いて欲しい
- 余暇活動を充実して欲しい

等

各部のねらい

小学部	中学部	高等部
1 児童の特性や能力を正しく理解し、個々の児童に適した指導を行う。 2 日常生活に必要な基本的生活習慣の育成と健康な体づくりに努める。 3 コミニュケーションの基礎づくりに努める。 4 情緒の安定を図り、集団生活に楽しく参加できるようにする。 5 他校及び地域社会との交流を通じてふれあいを深めながら社会性を育てる。	1 社会参加に必要な基礎・基本となる学力を身につけ、情操豊かな人間を育成する。 2 日常生活に必要な基本的生活習慣を育成し、健康な心と体を作る。 3 集団の中で人間関係を築きながら、自分の力を発揮し、協力して取り組むことができる能力を養う。 4 他校生徒及び地域との交流を図り多様な生き方を学ぶ。	1 自分の興味・関心をのばし、豊かで生きがいのある生活ができる力を養う。 2 社会自立に必要な基本的生活習慣を育成し、健康な心と体を作る。 3 望ましい人間関係を築くためのコミュニケーション能力を養う。 4 勤労意欲を高め、進んで社会に参加する能力を培う。

キャリア教育　学部方針

小学部	中学部	高等部
遊びや生活に結びついた体験的な学習を通して、いろいろな活動に取り組もうとする意欲や態度が育つよう支援する。また、日常生活に必要な力が身に付くよう支援する。	生活に結びついた体験的な学習や作業学習を通して、主体的に物事に取り組もうとする意欲や態度が身に付くよう支援する。また、将来の豊かな生活へとつながるように、社会生活への関心を高め、様々な活動を経験できるよう支援する。	作業学習や産業現場実習等を通して、働くことへの意欲を高め必要な知識や技能・態度が身に付くよう支援する。また、働くことや社会生活の意味を理解し、豊かな生活を自ら実現できるよう支援する。

進路支援の方針

児童生徒及び保護者の思いや願いを支え、将来の豊かな生活の実現に向けて、進路に関する学習や情報提供等をとおして、自分らしく生きようとする態度や意欲を育み、関係機関との連携を図りながら社会自立への基盤作りを支援する。

図表6　キャリア発達段階・内容表（全体構造）小松養護学校版（試案）

	キャリア発達の段階と【発達課題】	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
職業的発達に関する諸能力		基礎的スキル獲得のステージ 【全人的発達：～　目的が明確な活動／身近から地域／要支援から自主的・自立的】			基礎的スキルを土台に、それらを統合・応用するステージ 【例外や変化に対応】	実際に“働く生活”を想定し、具体的に適応するためのスキルを獲得するステージ 【生活する／働き続けるために】
	人間関係形成能力	集団活動 □大人／年長者とのかかわり	□子どもどうしのかかわり	人とのかかわり □自分の長所 □友達の長所 集団参加 □集団活動への参加	自己理解 □達成感に基づく肯定的な自己理解 他者理解 □相手の気持ちや考え、立場の理解 協力・共同 □集団における役割理解と協力	□職業との関係における自己理解 □相手の考え、個性の理解 □集団（チーム）の一員としての役割遂行
		意思表現 □要求／拒否	□許可 □説明／思いの表現	□日常生活に必要な意思の表現	□社会生活に必要な意思の表現	□必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力
		あいさつ □あいさつへの反応	□自分からあいさつ 清潔／身だしなみ □清潔／身だしなみへの気づき	挨拶／清潔／身だしなみ □あいさつ／清潔／身だしなみの習慣化	場に応じた言動 □状況に応じた挨拶、振る舞い	□TPOに応じた言動
	情報活用能力	社会のきまり □してはいけないこと	□教室／学校のルール	様々な情報への関心 □仕事、働く人への関心 □地域社会資源の活用	情報収集と活用 □進路に関する情報の収集 □社会の仕組み、ルールの理解	□職業生活に必要な事柄の情報収集と活用 法や制度の理解 □社会や様々な制度やサービスに関する理解と実際生活での利用
			お金（硬貨／紙幣）の使用 □買い物	金銭の扱い □生活における金銭の大切さの理解	金銭の管理 □消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費	金銭の管理 □消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費
		手伝い □目的のある行動	役割の分担 □係活動の実行	役割の理解と分担 □当番活動や役割の理解と実行	働くことの意義 □様々な仕事があることに関する体験的理解	□職業及び働くことの意義の理解
	将来設計能力				役割の理解と実行 □学校生活／家庭生活において自分が果たす役割の理解と実行	□社会生活において自分の果たすべき役割の理解と実行
		習慣形成 □規則正しい生活リズム		□家庭／学校生活に必要な習慣づくり	□職業生活に必要な習慣形成（基礎）	□職業生活に必要な習慣形成
			希望 □係活動／役割に関する希望	夢や希望 □職業的な役割モデルへの関心	□将来の夢や職業への憧れ	□働く生活を中心とした新しい生活への期待
					生きがい／やりがい □学習活動への自発的な取組み	□職業の意義の実感と将来設計に基づいた余暇の活用
					進路計画 □目標を実現するための主体的な計画	□将来設計に結びつく進路計画
	意思決定能力	目的に向かって □目の前にある目的にむけ行動	□抽象的な目的への気づき	目標設定 □目標への意識／意欲	□目標の設定と達成への取組み	□将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定と、その解決策への取組み
		選択 □提示された物の選択の機会	□遊び／活動の選択	□選択と交渉／おりあい	選択（決定／責任） □自己の個性や興味・関心にもとづいたよりよい選択 □進路先／実習先に関する主体的な選択	
				振り返り □活動の振り返り	肯定的な自己評価 □活動場面での振り返りと、それを次に活かそうとする努力	□実習や作業学習において行った活動の自己評価
						自己調整 □問題解決のための選択肢の活用

図表7　指導内容表の一例（作業学習の一部）

能力の領域	項目	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	ステージ5	関連する教科領域等
人間関係形成能力	自己理解				・作業を通して達成感や成就感を味わい、働くことへの関心をもつ。	・実際的な職業体験を通して、自己の適性を知り、働くことへの意欲をもつ。	
					達成感に基づく肯定的な自己理解	職業との関係における自己理解	
	単元・題材例				中：染色、機織り、木工 高：木工、栽培、窯業、紙すき、清掃	高：栽培	
	協力・共同	・仲間と同じ場所にいる。 （学校生活全体）	・教師の支援を受けて作業をする。 （生単、図工）	・教師、仲間と同じ作業をする。 （生単、図工）	・集団の一員であることを理解し、協力して作業する。	・集団（チーム）の一員として自分の役割を理解し、協力して作業をする。	生活単元学習 図画工作 学校生活全体
		集団活動（大人/年長者とのかかわり）	集団活動（子どもどうしのかかわり）	集団参加（集団活動への参加）	集団における役割理解と協力	集団（チーム）の一員としての役割遂行	
	単元・題材例				中：ハーブ製品作り、木工、メモ帳作り 高：木工、栽培、窯業、紙すき、清掃	中：ハーブ製品作り、木工、メモ帳作り 高：木工、栽培、窯業、紙すき、清掃	
情報活用能力	働くことの意義				・就業体験等を通して社会に様々な職業があることを知る。	・いろいろな職業や働くことの大切さを理解する。	
					様々な仕事があることに関する体験的理解	職業及び働くことの意義の理解	
	単元・題材例				中：わく・ワーク体験 高：木工、産業現場実習	高：木工、産業現場実習、窯業	